IXC

自動テストの失敗分析・隔離・復帰運用シート

最初の失敗から調査、代替検証、復帰の根拠まで

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

自動テストの失敗について原因と未確認のリスクを区別し、担当者と復帰条件を記録します。

CIのテスト失敗を調査するQAリーダー、開発担当者、自動テスト資産の引き継ぎ担当者

目次

01 最初の失敗を事象として残します 3

02 観察と原因の判断を分けます 4

03 独自の試験例で失敗と修正を照合します 5

04 隔離中の検証を決めます 6

05 復帰は条件が変わった証拠で決めます 7

06 繰り返す原因と保守作業を引き継ぎます 8

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

最初の失敗を事象として残します

再実行で結果が変わっても、最初の失敗の記録は残します。テスト名だけを書くと、別のビルドや別のデータで得た結果が混ざります。事象番号の下に、コードとテストのリビジョン、環境、事前データ、期待結果と観察結果をつなぎます。

失敗事象の基本記録

項目	記録内容	証拠・参照
事象・テスト番号		
製品・テストのリビジョン		
環境・実行設定		
事前データ・期待結果		
最初の観察・実行番号		
再実行番号・変わった条件		

> **三種類の状態を区別します**
>
> 実行のPASS・FAIL・BLOCKED・NOT RUN、事象の受付・調査・対応・レビューの状態、自動テスト資産の使用・隔離・復帰の区分は、それぞれ別の記録です。調査中であることを理由に実行の失敗を消したり、隔離したテストを成功として集計したりしません。

画面キャプチャ、trace、ログは実行番号でつなぎます。記録にはアカウントのパスワードや個人情報の原文を貼らず、チームで開ける証拠の保存先とアクセス範囲を決めます。再試行回数、データの初期化、実行順序が変わったなら、まず同じ条件での繰り返しかどうかを確認します。

観察と原因の判断を分けます

失敗の原因は、ログの最後のエラー文だけで確定しません。合意した要求と観察結果を照合し、製品コード、テストの期待値、データ準備、環境を順に確認します。仮説には、確認した根拠と、まだ除外できていない原因を併せて書きます。

原因候補	先に確認すること	次の確認
製品欠陥	要求と実際の動作の違い	同じ入力・テストで製品の修正を検証
テストの欠陥	期待値・ロケーター・観察のタイミング	要求を保ったままテストを修正
データ・環境	共有キー・初期化・バージョン・連携	疑わしい条件を制御して再現
未確定	観察はあるが原因の証拠が不足	担当・追加の観測・確認時点を指定

原因調査の記録

事象・仮説	確認・除外の根拠	次の調査	担当・確認日
記入例：F-DATA / 共有キー	二つの準備処理が同じキーを上書き	実行別のキーで同じ順序を確認	データ準備の担当を指定

製品とテストを同時に直すと、どの変更が失敗を解消したのかを読み取りにくくなります。可能な範囲で条件を一つずつ変え、前後の記録を残します。原因を絞り込めていない状態も結果の一つです。ユーザーが直面している問題の証拠があるなら、テストの問題だという仮説だけで製品欠陥をクローズしません。

独自の試験例で失敗と修正を照合します

以下は、IXCがこの資料の作成のために実行したローカルのNode.js合成試験です。三つの原因を意図的に組み込み、最初の失敗と修正後の結果を比較しました。顧客の製品やブラウザー、運用CIを検証した結果ではなく、実際の発生頻度も測定していません。

事象	最初の観察	確認した修正	修正後の観察
F-PRODUCT	閲覧者の役割で編集を許可	製品の役割条件を修正	同じ期待値で3回PASS
F-DATA	別の準備処理が所有者を上書き	データキーを実行別に分離	同じ順序で3回PASS
F-TEST	有効は2件だが期待値は全体の3件	有効件数の要求に合わせて期待値を修正	製品を変えずに3回PASS

再試行の成功だけで原因をクローズしません

F-DATAは、初期化したデータで再試行するとPASSでしたが、元のAの書き込み→Bの書き込み→Aの読み取りの順序で再実行するとFAILでした。実行別のキーに分けてから、同じ順序を確認しました。実際の並列スケジューラーを試験した結果ではありません。

修正後に三回確認したという回数は、この例の観察記録です。すべての自動テスト資産に適用する安定性の基準ではありません。実務では、影響を受ける環境とデータ、失敗の条件を再実行できるかを確認し、復帰の担当者が合意した根拠をレビューします。

隔離中の検証を決めます

自動テスト資産を隔離しても、そのリスクの検証を終えたことにはなりません。どの実行段階から外れるのか、その間に何を手動または別の層で確認するのかを書きます。代替検証がなければ、確認できなかった範囲としてリリース担当者に伝えます。

隔離・代替検証の合意表

記録項目	合意内容	担当・証拠
隔離対象・事象番号		
外れる実行・リリースへの影響		
隔離の理由・残る仮説		
代替検証・実行時点		
修正担当・次のレビュー日		
復帰または終了の条件		

> **記入例：データ衝突の調査中**
>
> 共有キーを使うテストを調査対象として切り離したなら、そのフローを独立したデータで確認する担当と実行番号を残します。この代替確認は、並列実行全体の安定性を証明するものではありません。まだ確認できていない条件は別に記録します。

隔離したテストの数を減らすことだけを目標にすると、削除で数字を合わせることもできてしまいます。隔離の理由、経過期間、代替検証の有無、未解決のリスクを併せて見ます。自動化しない方針に変える場合も、その検証を誰がどのような方法で引き継ぐかを合意します。

復帰は条件が変わった証拠で決めます

復帰レビューでは、原因の仮説、修正内容、元の失敗条件での再検証を続けて読みます。テストコードを直したなら、要求の検証が弱まる方向に変わっていないかを確認します。製品を直したなら、テストの期待結果をそのまま保って確認できるかを見ます。

復帰レビューの記録

事象・修正番号	再検証の条件・実行	確認結果・残る限界	レビュー担当・決定
記入例：F-TEST / t1	有効2件・無効1件を維持	要求は有効件数、製品はそのまま	例の観察 / 実際の承認ではない

確認項目	復帰前に残す根拠
元の失敗条件	同じ条件で再実行した記録
修正の影響	他のシナリオが受ける影響と確認
検証の意味	要求・期待値・観察方法を変えた理由
再び失敗したとき	担当・受付経路・調査資料の保存先

繰り返しの回数は、製品リスクと実行の変動を見て決めます。回数だけを満たし、元の失敗を起こしたデータや実行順序を外せば、十分な根拠にはなりません。復帰の承認とリリース承認は区別し、リリース会議には、そのビルドで実際に行った結果と未検証の条件を伝えます。

繰り返す原因と保守作業を引き継ぎます

月次レビューでは、異なる失敗事象を原因別にまとめ、改善する作業を決めます。実行数が増えたり再試行が多くなったりすると、分析時間も変わります。最初の失敗、再実行、調査と修正の時間は同じ期間にそろえて見て、製品欠陥の数と混ぜません。

保守作業・引き継ぎの記録

繰り返す原因・事象	修正・予防の作業	担当・次の確認	実行・文書の保存先
記入例：共有データの衝突	実行キーの規則とクリーンアップ手順を修正	担当を指定・次回実行でレビュー	準備コード・実行ログをひも付け

相談の前に準備する資料

代表的な失敗事象、コードとテストのリビジョン、現在のCI実行方式、データ準備と保守の担当を整理します。機密情報を含まずに共有できるログを選べば、IXCと失敗分析・自動テストの保守範囲を具体的に合意できます。

失敗の分類にかかる時間と、スクリプト修正、環境準備の時間を分ければ、次の予算で何を改善するかを説明できます。再試行後の成功率の上昇を、製品品質の改善やコスト削減と断定しません。テスト資産と調査手順が、次の担当者に一緒に残る必要があります。

IXC

発行・ご利用について

代表的な実行記録、環境・データの準備方法、社内の保守担当をもとに、失敗調査と修正・引き継ぎの範囲を一緒に決めます。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/test-automation

www.ixc.co.kr/ja/assets/test-automation-failure-log

参考資料

Playwright Retries：再試行と実行状態の区別

https://playwright.dev/docs/test-retries

Playwright Best Practices：テストの独立性とデータ制御

https://playwright.dev/docs/best-practices

IXC：テスト自動化は何から始め、何を人に残すべきか

https://www.ixc.co.kr/ja/insights/test-automation-portfolio

IXC テスト自動化

https://www.ixc.co.kr/ja/services/test-automation